

# 第10期岡山県生涯学習審議会 第2回会議 議事概要

日時 平成28年2月16日(火)

14:00～16:30

場所 県土連ビル5階会議室

## 1 開 会

## 2 議 事

### (1) 報告事項

第2次岡山県教育振興基本計画について

### (2) 協議事項

「学びを通じた持続可能な地域づくり」について

### (3) その他

## 3 閉 会

### <議事概要>

#### ○「2 議事 (1) 報告事項」

平成28年2月に岡山県教育委員会が策定した「第2次岡山県教育振興基本計画」について事務局が説明。

#### ○「2 議事 (2) 協議事項「学びを通じた持続可能な地域づくり」

委 員

最初に審議会の進め方についてですが、先ほど説明にもあったように今後5年間の計画期間とする第2次岡山県教育振興基本計画が策定され、この中で生涯学習に関わる部分を推進していくための取組について皆様方に御議論をいただきたいと考えている。具体的には、今回と次回の2回は基本計画の主要な課題である「学びを通じた持続可能な地域づくり」をテーマに、皆様方の日頃の活動やいろいろな情報等を御紹介いただきながら審議を進めていけたらと思っている。また、委員の皆様方からいただいた御意見を整理したものを、29年度の予算編成に向けて提言できるように事務局でまとめていただく、という方向で審議を進めてよろしいか。

委 員

意見なし

委 員 それでは「学びを通じた持続可能な地域づくり」について、事務局で資料を用意してくれているので、説明をお願いしたい。

事務局 関係資料により事務局から説明

委 員 資料の7ページに、地域に関する学習、若者の地域活動、NPO等関係機関との連携というような三つの視点を挙げている。  
皆様方から具体的に関わっていることでも結構ですし、集めている情報でも結構ですので、こういう取組をしている、こういうところは素晴らしいと思うけれども課題もあるとか、今後こういう方向へ持っていけたらいいのではないかと、というような意見を率直にいただきたい。これについて、というと御意見が出にくいと思うので、ご自分が関わったり集めたりしている情報を元にお話しをいただければと思う。

委 員 資料の8ページの地域に関する学習の充実だが、公民館に絞ってお話ししたい。  
倉敷市では大きく4つのブロックがあり、それぞれの地区に公民館があり、そこでいわゆる郷土史をやっている。私も興味があるので可能な限り郷土史の講座には出向くが、ただ自分が学んで、そういうことだったのか、だけで終わるのではなく、私も地域の自治会の会長をしている関係で機会ある毎に、地域にこういう歴史があったのだという話をしている。  
今日出席する前に玉島公民館の啓発指導員と話をして来たが、講座のアンケート調査で受講生の何名かは、講座で受けた内容を地域に持ち帰り、地域住民に還元しようとしていると聞いた。特に若い女性ほどその傾向が強いそうだ。  
公民館の郷土史で、郷土愛を持とうと地域の学習をする機会はあるが、実は公民館は直接関係なく、私の住んでいる地域の地区社会福祉協議会で、毎年地区の歴史を、小学生の子どもからおじいちゃんまでみんなで歩いて、自分達の住んでいる郷土をもう一度見つめ直そう、併せて今の現状を見るときに、例えば海岸沿いであれば、東南海・南海地震があったときこの辺りはどうなるだろうか、と言うようなことも考えながら、そういう取組もやっている。  
ただ残念なことに公民館主催ではない。あくまで地区社会福祉協議会の主催で、その中に公民館の職員も参加する、というのが私の住んでいる地域の実態である。

委 員 地区社会福祉協議会というのは具体的にどのような組織か。

委 員 倉敷市全体に倉敷市社会福祉協議会があり、その下に支部として小学校区単位で地区社会福祉協議会がある。

委員

それらはボランティアで動いているのか。

委員

市の社会福祉協議会からの要請で、小学校区単位で地区社会福祉協議会を設けており、予算はわずかだが、地域のために有効に使い、地域の活性化につなげて欲しいということだ。

委員

社会福祉協議会は各種団体が集まってできている。

私の住んでいる地域は、史跡の宝庫で、神社、仏閣、様々な昔からの言い伝えがある。一緒に勉強して歩いたり、三世代交流も地区社会福祉協議会が行っている。三世代というとお爺ちゃん、お婆ちゃん、お父さん、お母さん、それから子どもというふうになっている。

また、幼稚園就園前の子どもから一人暮らしの高齢者の方をお世話しようとか、幼稚園児が歌を歌って慰めようとか、私どもは毎月地域で活動している。地域が私どもの活動の場であり、私どもだけでなく、いろんな団体がやっているが、公民館が余り関わっていないということが残念である。

私どもの地域は、人権にも力を入れている。また、小中高校が協力して、何かあるというと皆さん集まって活動してくれる。しかし公民館は、場所は貸してくれるが、余り出てこないし、イベントがあっても館長はあまり覗いてくれない。もう少し館長のご指導をお願いしたい。

公民館は地域の茶の間であると思う。多くの方が来て、そこで本を読み、皆さんと交流する親睦の場であると思う。

私も講座を一つ持っているが、いつも20人の定員がなかなか埋まらないのに、私の講座は40人くらい参加してくれる。開講式は学校でいえば入学式、閉講式は卒業式と私は認識しているが、公民館長が開講式で、大勢参加されたことが良くないことのようにあいさつされたのが残念だった。

委員

お二人の委員から、地区社会福祉協議会が地域に関する学習をいろいろやっている、それも三世代交流とかいろいろな人を集めての取組をしているというお話しがあった。また、本来そういうことに積極的に取り組むべき公民館があまり芳しい方向でないという御意見だったように思う。

公民館については、地域に関する学習を実施している公民館の割合というのが、開催要項の8ページの上のところ、調査の結果が出ているが、いくらか上がっては来ているが、半分までいっていないという状況が出ている。

公民館の話が出てきているが、こういうことをしっかりやっている、こういうことが課題だとかはいかがか。

委員 私は津山市で、公民館に大きく関わっているわけではないが、津山市内のある地区で新しい公民館ができ、非常に活発な活動をしているところがある。公民館ができるまでは、町おこしの青少年グループが中心となって活動していた地域だが、公民館ができてからは、すごい協力体制となっている。

すべての事務局が公民館にあり、町内会であるとか愛育委員会などいろんな方々が常に関わっている。6つのグループぐらいに分かれて、自主的に公民館にみんなが集まり、町おこしのグループであるとか、学校とか幼稚園にまだ行かない幼少の子どもの親子であるとか、高齢者の方であるとか、自分たちでできることをすごい協力体制で行っている。例えば、お寺がとても多い地域だが、おかげ巡りとして、住職さんにも協力を得て、参拝や境内の見学も了承してもらおうなど、みんなで街を盛り上げている。

委員 新しい公民館が積極的に活動しているということで、先ほどの調査でも半分位は地域の学習に取り組んでいるが、半分位は取り組めていないという調査結果が出ていた。

委員 地域の学習に取り組んでいる公民館の調査で、25年度に数字が下がったのはなぜか。

事務局 はっきりした原因は分かっていない。県の事業が24年度までで一区切り付けたので推進体制が少し弱くなったのかもしれない。

委員 事業の区切りで、こういう結果が出ているのではないかとということですか。

委員 地域のことをやるというのでなければ何をするのか。そもそも公民館は何をするのか。

委員 公民館は地域の方々のいろいろな取組が充実していくようにする場所だが、公民館自体は県が管理しているものではなく、市町村が所有し管理もし、人も配置しているものである。

それぞれの公民館がそれぞれの考えで、地域に関わるような活動をやっている公民館もあれば、場所を提供するのが中心となっている公民館も中にはまだある。

県公民館連合会の会長としてお話しさせていただくと、公民館は地域をあるべき方向にもっと積極的に引っ張っていかないといけないということで、公民館職員の研修はしっかりやっている。そういう意識がどんどん広がっていけば、公民館の取組も変わっていくのではないかと思うが、県下に公民館が随分たく

さん有るので、一度に変えていくということになっていないのが現状と思う。  
生涯学習センター所長が、直接公民館の指導もしてくださっているので、少しお話しをしていただきたい。

生涯学習センター所長

公民館に館長、職員がいるというしっかりした体制を持っているところが意外に少ない。岡山市はとても充実しているが、岡山市以外では、非常勤の館長だけがおられるとか、非常勤の職員がいるだけで、主に貸館が中心となっているところも少なくない。

ただ、非常勤の職員だけの公民館でも、ものすごくがんばっているところもあり、地域への働きかけ方を工夫することで、かなりの成果を上げている。必ずしも体制が十分でないからできないわけではない。市町村のバックアップもしっかりあり、職員の意識も高くなると、できるのではないかと思っており、成功事例を伝えていきたい。こんな苦労があって、こんな成果があった、というようなことは伝えていきたいと思う。

日常的に学習する場になり、地域の茶の間というのも一つの姿であるし、その中で地域をよりよくしていこうと、地域の方が持ち寄って、集まることで初めて話が始まり、取り組んでいく、そんな街が展開できるような、そんな公民館像が提供できればと思う。そういう途上にあるのだと思っている。

委員

公民館というのは、社会教育法で位置付けられているが、井原市美星町の公民館は自治公民館で、自治会と公民館が一体になっているものである。公民館館長が自治区長となっていて、非常に活発な活動をされている。

私の出身地では、そういう公民館は無かったので、地域によってこんなに公民館というのは違うのだと思った。県内でも市町村単位で、公民館の性格が大きく違っている。

隣の町が何をしているのか事例を知らない。それをもっと知り合えるようにすることが必要だと思う。

委員

公民館でいろいろなことをしようと思うと予算がいるが、理解のある市町村は比較的予算が付くが、あまり理解のない市町村では、予算の獲得が厳しいという現状もあると思う。活動しようとしてもやりにくいということもある。

もっとも予算が無くても無いなりにやろうと思えばできる。その辺が意識の問題で、例えば、指導者でもお金を払って講師に来てもらう方ばかり集めなくても、地域のことを学ぶのであれば、地域のことに詳しい人にボランティアで集まってもらい、皆さんにお話しをしたり、皆さんを連れて見学に行き、そこで具体的にお話しを聞かせていただくとか、やろうと思えばお金が無くてもできると思う。

根底は、館長、職員の意識がどこまでいっているかということが一番大きい

のではないかと。結局、いかにあるべき方向、目指す方向に向けての積極的な、意欲を高めるような研修を実施できるかということが、大変重要だと思う。

先ほど公民館だけではなく、地区社会福祉協議会で活動をしっかりやっているというお話があったが、公民館だけに頼るのではなく、そういうところと公民館が一緒になってやるようになれば、さらに盛り上がっていくと思う。

委員

香川県では高松市、丸亀市という岡山県で言えば岡山市、倉敷市にあたるような一番人口が多いところ二番目に多いところに公民館が無い。すべてコミュニティセンター化しているので、コミュニティセンターが公民館の役割を果たしている。

岡山から瀬戸大橋を渡るとすぐに宇多津町があるが、ここも公民館が無い。ただし、社会福祉協議会が非常に熱心な活動をしているし、町が面白い取組をされていて寺子屋事業というのをやっている。お寺がたくさんあって、そのお寺が公民館的な役割を果たしている。お寺が独自にやっているだけではなく、町教育委員会生涯学習課がしっかりとお寺に関わっていて、宗教的なことは出来ないが、公民館的な事業をお寺でやっている事例がある。

また、地域の学習で、この場合は生涯学習のことを審議する場であるので、公民館の活性化という話が出てくるのは当然であるし、公民館がそういう事業にもっとエネルギーを裂くようになれば好ましいのは間違いないが、公民館だけがそういうことをやっているのではなく、商工会議所とか観光協会とかが、ご当地検定を作って、それに基づいて町歩きをやっている。

観光という切り口から地域学習を兼ねた取組というか、町歩きをしながら歴史の勉強もしながら食べ歩きもするというような面白い取組をやっているのが、三豊市という愛媛県に一番近い所の自治体である。

県として、第2次教育振興基本計画の中で、地域に関する学習の充実ということを図ろうと思った場合に、もちろん公民館は一つの切り口ではあるが、公民館がやっているやっていないという話だけになってしまうと議論が広がらないので、もう少し幅広く、いわゆる社会教育行政の中に入ってこないような周辺領域でも同じような取組をやっているところは多数有ると思うし、こういった観光協会とか商工会議所とか教育行政の枠外にあるところとも、うまく連携をしていくことも必要だと思う。

連携が充実していけば極端な話、公民館がダメだったとしても観光協会なり商工会議所なりが熱心にやっていて、その地域が実はすごく地域による地域学習が盛んになっているのならば、それはそれでいいのではないかと。少し視野を広げていく必要はあるのかなと、今皆様の御意見を聞きながら感じた。

委員

社会の成り立ちといえば地縁と血縁だと思う。地縁というのはいわゆる地域コミュニティ、従来からある地域コミュニティ、農村コミュニティが原型だと

私は思っている。

明治時代は8割が農民で、例えば、水田があつて水路を維持するためには水路の掃除をやるが、これは地権者がみんな集まってきて掃除をする。秋には道づくりといって自分たちで道を直していく。

協働で作業していく中で地域のつながりが維持されていくが、それがどんどん崩壊していつている。どうすればコミュニティの崩壊を止めることができるのか、ただ、役割を失ったコミュニティをずっと維持するのは難しい。

例えば、戦前から続いている日本社会の代表的なものとして、婦人会と消防団と青年団があるが、県内の市町村でこの三つが揃うところはないと思う。勝央町では婦人会と青年団は消えた。今かろうじて残っているのは消防団だけである。その中でいったい何を持って次のコミュニティを作っていけばいいのかというのが、教育委員会の直面している課題であると思う。

文科省の中には目的縁という概念があるが、これしか依って立つものが無いので、目的縁を作っていくことに一生懸命取り組んでいる。具体的には、町内にあるいろいろな団体の横のつながりの連携を作っていくという作業を公民館が中心となってやっている。

その中で冒険遊び場づくりをやっているが、町外から来られた方にすごく評判が良い。行政がやっているのは珍しいが、行政が冒険遊び場づくりをやらないのは事故やケガが怖いからである。でも腹をくくりさえすれば、ちょっと位の事故があつても続けていける。

小川委員の資料に出ているが、津山市の高倉が冒険遊び場づくりを自治会でやっているのが、すごいと思う。冒険遊び場づくりが地域課題の解決につながるという観点でやっているのだろうと想像しているが、そういう意味で、いかに地域課題を住民が解決していくかという形が必要になっていくのではないか。

公民館に求められてもなかなかできない。実際のところはいろいろなことがあるが、公民館は場所を提供することと地域の若者の活動の拠点になっていけば、日本にとつても岡山県にとつても非常に有益なのではないかと思う。県教委がこの「若者が主役」という事業を作られているのは、すばらしいことだと思う。

委員

先ほどから公民館だけではなく、こういう取組をしているのは地区社会福祉協議会とか観光協会とか商工会議所とか、先ほどはお寺もそういう取組をしているところもあるというお話もあった。皆様方の地域等で、連携というところになってくるとは思うが、公民館はもちろん中心となってやろうとする意欲を持ってがんばることも大事だと思うが、一生懸命やっているところもいろいろ有るようなので、御紹介をいただけないか。

委員

私は公民館とは何かということがずっと解らなくて、地域づくりをやる中で公民館を考えていて、皆様のお話のとおりだと思う。地域理解の学習を実施している公民館の割合をこれだけで数値化しても余り意味がないということである。

婦人会や老人会や学校や公民館などで、人が減り同じような役職を兼ねざるをえない中で、私はまちづくりで、地域の住民自治組織というものが、もう一回横に、新しい地縁組織を作って、その中で地域が助け合って生きたりすると思う。

葬祭であったり、自然を守ったり、誇りを若者が見つけて次代につなぐということに、新しい地縁組織が唯一の絆になるかもしれないという仮説である。

総務省が調べている全国の1700の自治体の中で、350くらいの自治体の中では、小学校単位を軸とした地域経営組織で、まちづくり協議会やコミュニティ協議会と言われるものがある。従来の消防団や青年団が無くなったという中で、もう一回、なんとか横軸で集まって地域を作っていこうという動きが笠岡市や井原市にある。それぞれの小学校が唯一、残れる小学校かどうかは解らないので、運動会で一緒になったり、学芸会で一緒になったりしている。

有識者会議の中で新しい地方組織を作ろう、自治体はそれを担保する自治基本条例を作ったり、あるいはもっと進んだことをやって地域経営をしてくださいという中で、地域学習について結論をいうと、公民館だけがするというのはなく、公民館の役割を果たす、本当にしていくのは地域の自治組織の皆さんがやっていく。

資料の9ページに笠岡市の例が二つ位出ていたり、あるいは8ページに笠岡東公民館の話が出ているが、この場合でも公民館がやるのではなく、まちづくり協議会がやっている。歴史をみんなで調べて、マップを作って、それを小学校の授業に取り入れてもらうとかは、公民館も手伝っていると思うが、地区社会福祉協議会も同じである。

地域の小学校単位で作られていて、まちづくり協議会がないところは地区社会福祉協議会的なところが横をつないで、まちづくり協議会と地区社会福祉協議会が一体化されると一番解りやすい。倉敷の場合は、まちづくり協議会や地区社会福祉協議会が入り組んでいるので、地区社会福祉協議会が横の連携を図る役割を担っている。

今日は生涯学習審議会なので生涯学習の話しかできないのかもしれないが、地域そのものの学びの場を強化していくのであれば、そういう調査をすれば、小学校単位でできていればいいと思う。公民館でやっていなくても。公民館は必ず役割があると思うので、そういう目線で小学校単位であっても、こういう地域の学習に関する調査ができたらいいと思う。

委員

小学校単位でと言われたが、私の住んでいる町は4つの小学校があり、その

一つが私の住んでいる地区の小学校である。その地区の方が都会に住んでいたが、おそらく退職をされてふるさとに戻って、郷土を愛するということで、自分たちの住んでいる地域の歴史を掘り起こしていくことを始められた。

ここにお城が有ったが今はどうなっているのだろうかとか、古い遺跡が有るところをきれいにして後世に伝えていきたいという思いを、まず同級生に話をして、その同級生が集まってやることはいいことだということで、歴史をたどっていく作業を始めた。そういったことを地域の方がだんだんと知って賛同し、一人で思ったことが、十人になり二十人になり、今は百人以上の地域の方が賛同して歴史の会というのを作られている。

昔のこの地域ならではの方言であるとか、小字などを起こしたり、地域に住んでいる偉人であったという方について昔聞いた話を起こしたり、とか本当にすごい作業をされたということである。

行政の協力もあったと聞いたが、分厚い本にされて、いまなおそれが続いているということで、郷土に関係があることがあれば、そこに研修視察に行こうとしたりしている。その代表が、小学校のボランティアのコーディネーターをされており、勾玉づくりや素焼きの土器を子どもたちと一緒に作ったり、地域ぐるみで昔の歴史を探っていくということをやっている。

委員

参考資料「NPO等、関係機関等の連携」にある「やかげ小中高子ども連合」は、平成25年からとなっているが、実はもっと前から矢掛町をあげた取組の「やかげ学」が母体となっている。矢掛高校のカリキュラムに組み込まれており、自分の住んでいる町のことをもっと知ろうという取組で地理・歴史・産業等について、公民館・幼稚園・保育所・介護施設等での体験を基にした活動がうまくいっている例である。

一つお伺いしたいのは、学習の充実のところでは、毎年15万円の予算があった事業があり、その次の若者のところでは、1箇所30万円ということだが最後のNPO法人のところは、こういうデータが無いが、どうなのか。

事務局

8ページの「あるある公民館」は24年度に終わっているが、これは県の事業ということで、予算が3年間一つの公民館当たり15万円という県の予算である。9ページについても県の新規事業で、基本的には1年単位で、今年度は10公民館にそれぞれ30万円予算が付いて、現在それを執行しているという状態になっている。最後のYKGは、直接県の事業ではなく、基本的には地域の方で立ち上げた事業ということで、町の方がいくらかその後委託をしたり補助したりしているのかもしれないが、直接県の事業ではないということで金額は上げていない。

委員

今は県の予算が付いていないということだが、将来的には、各地の地道な活

動にも県の助成金を付けていただくと、更に盛んになるのではないかと思われる。

また、先ほどから話題になっている公民館について、子育て支援の分野では公民館が大きな役割を担っている。支援者やサポーターが、地域でしっかり活動されていることを報告しておきたい。

地域の学習を実施している公民館の割合が、40～50%あれば合格点ではないかと思う。ゆるく、あまり縛りをかけずに、やりたい人がやりたい時にできるような受け皿を作っておき、地域で細く長く地道な活動をできるようにすることが公民館の役割ではないかと思う。

参考資料「若者の地域活動の充実」に関しては、大学生の子育て支援ボランティアグループを立ち上げて10年になる。備前県民局から数年に渡り、様々な形で支援していただいた。最近やっとその活動が周知されてきたと感じている。

また、現在は大きな社会問題になっている保育士不足の解消に向けて、潜在保育士復職支援事業にも取り組んでいる。受講生の多くは中高年の女性であり、生涯学習の範疇でもあるといえる。潜在保育士の研修を実施するに当たって、これまで2年間は県の子ども未来課の助成金を受けてきた。継続して実施するための課題は経費の捻出である。特に困っているのは広報・宣伝費で、新聞等のメディアに広告を出すと膨大な経費がかかる。例えば、県の広報活動の一環として、広報紙等に掲載・記者発表など協力していただければありがたい。さらに、NPO等、関連機関との連携を深めることによって事業の成果が高まるのではないかと期待している。

## 委員

私が準備してきた資料は、県が出している「いきいきネット」という広報誌に載せているものである。昔は小学校を地域で作ったというように、公共というのはまず市民が作って、それから国や県ができたということを最初に出している。

二つ目に伝えたかったのは公教育というか生涯学習は、学校教育と別々に議論されていることである。

最終成果は高校出て大学へ行っても帰ってきて欲しいということであるが、一番に地域のことを知ったり調べたりして、東京の方がいいから帰ってこないということではなく、学校教育の中に社会教育的なものが、個々には隠岐の島の海士町というところが、高校教育から立て直したというのがある。町の職員が、学校教育からまちづくりをしたというものである。

岡山県では和気町で、学校で地域興し教育を行っている。その前に、やかげ学、矢掛高校であるが、山陽新聞でも報道されていたが、地域の文化歴史を学んだ後に、町の美術館、介護施設等で一年間の長期実習を行っている。高校教育のカリキュラムに入っている。

林野高校は、みまさか学というように、公教育の中にそういう視点が入るといふことの大切さがある。和気の場合は、中学校に地域おこし協力隊の方が話をして、小中高の流れで学校教育の中に社会教育的な部分を補って、地域おこしにつなげているという取組がなされている。これは中学校にも降りてきていて、各市町村で中学生を対象とした取組があると思う。

もう一つは地域住民自治組織が、さっき高倉がでたが、高倉は津山の一地域で、高倉小学校区の自治協議会だがNPO法人である。自治協議会がNPO法人も作って、高倉塾を経営し、今は高倉自治大学と言っている。まちづくりは人づくりということで学びの場が地域の組織にある。井原は、私の自由に自由意志でしているが井原ブライド塾がある。山村シェハウスの事例も出しているが、学校教育の中にも地方自治組織の中にも自由に市民が集まって、ただ学ぶのではなくて、実体験をしながら学ぶということこそが大事であると思う。

これが多分、人口が減っていく中でのまちづくりであり、自由でかつ実践しながらも、交流したり学び合う場がないと、将来厳しいと思う。逆に、これがあれば何とかやっていけるかもしれないと痛感している。

委員

資料7ページの三つの視点の真ん中の所に関わってくる、特に若者を地域活動や地域に関する学習へどう巻き込んでいくかということに関わる具体的なお話して、それが大事なのではないかということであった。ここまで一番上と一番下の視点を中心に意見交換をしてきたので、今度は二番目の若者を地域活動に取り込んでいく、そういった現状とか課題とかを、休憩を挟んで御意見をいただきたい。

休憩

委員

先ほども学校とか若者がいろいろな地域活動に取り組んでいくことが重要ではないかということで、お話しもその方に向けてもらっているので、若者が地域活動に取り組んでいる情報も把握している委員がおられれば、お話ししていただきたい。

委員

私は子ども会活動に関わっているが、当事者は小学生だが、この小学生の子ども会活動を引っ張っていくのが、我々大人もさることながら中学生、高校生である。これはジュニアリーダーという位置づけで、育成もしているし活動もしている。

中学生であれば、部活動、定期試験と高校入試も控えて、中学生としてはやりたいけれど、部活動で縛られる、せつかくの土日もある、ということで活動してくれる生徒が少ないのが現状である。

子ども会というのは、大きな目で見れば、地域で社会を創造していくという

崇高な使命を掲げている。中学生、高校生のジュニアリーダーが可能な限り小学生を引っ張っていく。

子どもは地域との関わりの中で、伝統文化とか伝統芸能、地域の環境問題とも関わる中で、挫折をしている。本当を言えば一番大きいタイトルである「学びを通じた持続可能な地域づくり」、地道でありながらも長続きする活動というのはどうしたらよいのか、日々悩んで考えている。

かつて岡山県教育委員会に我々の大先輩が、特に中学生、高校生がジュニアリーダーとしてがんばっていることを何らかの形で評価して欲しい、高校入試の時に、中学校の部活動の評価がありながら、ジュニアリーダーとして地域のためにがんばっていることを、何とか評価に入れてもらえないか、という取組を仕掛けたと伝え聞いている。若者が地域活動の中で芽吹いてもらおうと思えば、社会的な評価も必要ではないかと思う。

ジュニアリーダーが高校に行き、大学に行って、社会人になるが、我々はいつも地元に戻って来て地元就職するように言っているが、なかなかそうならないのが実情である。

もう一つ、かつては公民館の夜間の講座に、若者が会社を終えて講座を受講できる体制が倉敷市にはあったが、ここ10年も20年もそういう実態は全くない。若者に地域に関心を持ってもらおうとか、地域づくりに関わってもらおうとかすると、やはり公民館の夜間講座ができるような、財政的な支援が必要なのではないかと思う。

委員

公民館活動とか若者の活動ということだが、よく見ると、どことも取り組んでおられる。私の家の近くは少子高齢化が進んでいるが、特に高齢者が活躍する場合は公民館が音頭を取ってやっているの、若者よりも高齢者の方が多く公民館に集まってきて、体操や卓球やダンス等の活動をされている。こういった方々は非常に生きがいを持ってがんばっておられるので、これこそ生涯教育、生涯学習だと思っている。

子どもの場合は、過去にはわんぱく塾とかいろいろ体験を積むような公民館活動があったが、今は、子どもは部活動とか勉強で余裕がなく活動ができていない。やっている場合は、スポーツ少年団で野球とかサッカーだが、勝つためとか自分がやりたいスポーツになってしまって、地域の次の担い手を育成するような取組になっていない気がする。

委員

私の地域の中学校は一つしかないの、親睦を深めたり顔を知るために、登下校のあいさつ運動に力を入れている。必ず中学生が学校に行くときも帰るときに、行ってきます、帰りました、のあいさつに一番力を入れて、地域の人になじめるように一生懸命やっている。

学校支援も中学校の中に入って、課題のある子と話し合いをして、学校に来

るように言ったりしている。一人暮らしの方のおもちを作る取組を年1回しているが、これは中学生に必ず餅つきをやってもらう。すると中学生も喜んで地域の人となじめる、そして一人暮らしの人にはこういうようにしていくんだという昔からのしきたりを教えている。

また、瀬戸内ツーデーズマーチの時にもお弁当を食べるところで、豚汁とか作って出すが、そこに中学生を呼んで、30分くらいでも全員に、全国から来られた方に男の子はあいさつをする、女の子は豚汁を渡すとかして、地域の人やいろんな人となじめるように努めている。

委員 普段の関わり方というのも、子どもが地域のいろいろなことに目を向けていくきっかけになる、地域の行事、一人暮らしの方へおもちをついたのを持っていってもらう、という程度であれば、毎週の活動ではなく1年に何回かの活動ですので、余り負担もなくてできる活動になっていくと思う。

委員 私は高校のPTA役員をしているが、学校で地域貢献活動をしようということにしている。強制的な体験ではないが、地域のためになる活動をしようということで、子どもが部活動の合間を縫って近くの神社の清掃に行ったり、小学校に勉強を教えに行ったり、というように地域に対する貢献は学校の取組として行っている。

これがきっかけとなって、こんなことをしたらいいんだとか、自分でもできるということ、解ってくれたら、きっかけは別の目的であっても自分で進んで行ければ、それはいいことだと思っている。

中学校は小学校に、高校は中学校にピアサポートといって勉強を先生が教えるのではなくお兄ちゃんお姉ちゃんが教えるというのも、小学校区、中学校区の取組で中学校の子が小学校に教えに行ったり、先生も縦の交流をするような活動ができていることはすごくいいことと思う。昔だったら近所の子とも遊んでいる間に、上下、年の離れた子どもと遊んでいたのが、今はもうそういう機会が無くなっている。小学校でも縦での遊びをしないとなかなか縦の関係ができづらいし、自然にできるのを待つのは難しいので、いろいろな形で交流しながら、地域の方にもボランティアとか役に立つことが伝わって、自分たちに向けられるようになったらいいと思う。

委員 若者の地域活動で、若者というのをどの年齢層に取るかで違ってくるのですが、大学生のことをお話ししたい。一般論として今大学が地域貢献ということに熱心に取り組むようになっていて、例えば、国からの補助金があって地域とのつながりを強めていくというものもある。

県内には多数の大学があるが、いろんな活動をしているはずである。私は香川でやっているが、どうすれば大学生が喜ぶかということを見ると、以外と

つまらないことでも喜ぶものである。

先ほど評価という話が出たが、感謝されるということがすごく大切なことである。例えば、学生を連れて地域のコミュニティセンターや公民館で何かやったというときに、教育長がわざわざやってきてありがとうと言ってくれただけでも、すごく喜んで、また次の機会があったらがんばろうという気持ちになっている。

あるいは、その自治体の広報紙で、学生が来てこんなことをしてくれた、と書いてくれるとそのことを学生は喜ぶ。自治体の広報紙だけではなく、地元の新聞で取り上げられた、地元のテレビ局が来て取材してくれた、そういうことが学生の中では成功体験になっている。

社会教育施設あるいは学校の中でのボランティア活動というのは、もっともっとこんなことをやっていますよとアピールをしていっていいのではと思う。先ほどの総社高校での取組がありましたが、そういうことをメディアであったり、メディアでなくても自治体の中で、こんなことをやっているというのをアピールするだけで子どもたちはすごく喜ぶのかなと思う。

県として、何をしていかなければならないかは、これから議論していかなければならないことだと思う。お金をどう付けていくかということは考えていかなければいけないが、お金をかけなくてもできる部分はあると思う。がんばっている大学生をホームページで紹介するというのもいいと思う。大学生だけでなく高校生、中学生というのもあると思うが、県で取り上げて紹介してくれたというだけでも喜ぶというのもある。学生のやる気を喚起するという方法を考えていく必要があるのかなと思う。

委員

地域貢献ということが大学の中の大きな要素になっているので、どの大学も地域貢献を一生懸命やっている。県内でもたくさん大学があるが、それぞれのところで地域に出かけて地域のために、子どもたちに関わったりいろいろなことをやっておられる。

学生が社会貢献に出かけていたら大学で評価されるのか。まったくのボランティアで自主的な活動に任せているのか。

委員

単位とかにはならないけれど、就活の時に履歴書に書けるぐらいか。

委員

企業も評価すると思う。

委員

先ほど委員からお話のあった子どもたちが学校で取り組んでいる事例で、矢掛高校の「やかげ学」とか和気閑谷高校は、全く自主的にやっているのか。学校が音頭を取ってやっているのか。

委員

進学校だけがもてはやされて、地域の高校が定員割れを起こしている。本当に生き残りをかけて、高校のカリキュラムの中でやっている。高校の生き残りということが主目的になっている。生き残るために、地域や大きな理念を持っているからこそ生き残ることができるという意味で、みまさか学であったり和気学であったら、町の人が先生になる。サポートは地域おこし協力隊であったりする。

教育委員会と首長部局のある一定の目的意識がある。本当は内実はわからないが、一応共通目的で垣根を越えてやれると思う。私は、それは大事なモデルだと思う。矢掛もいま、すごく元気がいいが、本陣が再生されたり、その根底は学びのところからのまちづくりであるし、県庁で言えば協働推進のラインと教育委員会である。

先ほど地域の学習は全体でやればいいんだと言ったが、一方で公民館はもういらぬのではないかと、極論を言えば地域活動センターでいいという意見もある。こういう中で公民館の新しい役割は何かということ議論していくべき時に来ている。

県内では岡山市の公民館が一番進んでいると言われているが、岡山市は今、公民館の在り方を必死で考えている。高松市や福山市のように地域センターにしてしまえばいいのではないかと意見もあり、公民館は本来こういう役割があるということを見せていかないといけないところにきている。公民館の在り方も含めて、人づくり、地域づくり、教育そのものの在り方が問われている。

18歳の選挙権の話だが、公教育が地域参加というときに、まちづくりというのは、地域の歴史を知るのもそうですけれども、どのように18歳に参加してもらうのか。教育現場の中で若者に地域に入ってくれと言うのであれば、投票というのでも考えていく必要がある。

若者が主役の地域づくりをする文脈の中にもそういう地域参加あるいは政治参加を議論したり、地域への参加のために学校教育ができること、公民館ができることを議論していくことも大事なかなと思う。

赤磐市とかでは協働事業として、一緒に事業してくださいという助成金申請のようなものが始まっているが、いままでは市民の側が市に対して、これをやりたいので、お金を出してくださいとしていたのを、行政発信型にしている。

高校生も含めた政治参加というか教育というものを、どうしたらいいかというのを市民団体に提案してもらい、それに10万円付けるという提案型のまちづくりにしている。若者に地域の中に参加していただく提案を市民がしてくださいということが始まっているので、教育というものの中に、高校生も含めた若者にどのように地域へ参加してもらうのか、いわゆる地域経営に参加していく仕組みを、教育委員会として考えてもいいのではないかなと思う。

委員

学校として取り組むということについては、いろいろな考え方があると思う

が、教育課程の中に含めているということになれば、子どもも大勢そういう活動をするようになると思う。

委員

前回は審議会の位置づけがどうなのかと質問をさせてもらって、教育振興基本計画があって、その中の5章の(1)ということだったが、ここだけやるのにこのような立派な審議会はもったいないと思った。

一つには生涯学習という言葉で、学校教育が終わった人が、後の人生豊かにするために自分で勉強しなさいよ、という意味かと思ったが、個人の趣味や教養の範囲に留まらず地域に貢献させなさいということになると、これは地域づくり教育、地域づくり学習と言った方が解りやすいと思う。

学校教育と生涯学習は別物ではないということだが、基本方向の中でも学校づくりとか学びのとか、すべて地域との関わりが出てきている。小学校、中学校、高校、大学も含めて、地域とどのように関わっていくかということを経済振興基本計画全体の中で考えていくという流れと思うが、こういう理解でよろしいか。

事務局

学びを通じた地域づくりなので、そういうテーマである。

委員

地域の基本は小学校区と思う。地区社会福祉協議会がどういう組織になっているかはよく存じていないが、いろいろな組織がたくさんあって、ラインがたくさんあるというのはよくないことだと思う。

小学校区の中に地域づくりセンターができていって、それが公民館であってもよいし、お金の話もあると思うが、場所があって人がいるというのは高いコストがかかっている。それをいかに使うか、ばらまくのではなく既存のものをいかに使うかということだと思う。

京山公民館は夜10時とか11時でも平気で開いているし、朝の会があるときは朝から開いているというように、運営の仕方によっていろいろできると思う。活用することが大事だと思う。小学校でも放課後とか土日とか使い方はあると思う。人口が減っていく中で今あるインフラをどうやって使うのかということを考える視点も入っていると思う。

委員

生涯学習というのは幅が広いので、大きくいえば学校教育も含めて、小さいときから学校教育、そして学校を卒業してしまっても、壮年時代から学ぶ、年を取ってから学ぶというような全部を含めて生涯学習といっている。全体をいうと大きくて大まかなことにしかならないので、視点は定めながら施策はやっている。

生涯学習という概念の中で、学校教育の教育課程の中に地域を学ぶ取組を入れた学校もある。地域のことに目を向けさせようとする、より多くの学校が

やっていけるようになれば、こういう視点が充実していくようになるのかなと思う。

ただ、学校は学校で学力が低いから学力を上げなさいとか、問題行動があるから問題行動を起こさないようにしなさいとか、いろいろなことが学校に求められている。学校は忙しいので全部を求められてもできないという面もある。

地域に関する学習が受け入れられる土壌というところでは比較的やりやすいと思うが、保護者によってはそういう取組はして欲しくないという意見もある。地域と学校が協議をしながらどういう取組をしていくべきかということ話し合っていくことが必要だと思う。

委員

その辺の現状はどうなのか。

事務局

若者の地域活動に関して、特に矢掛等で行われている公教育での特色のある活動だが、学校の方も考えていくが、地域がそういう体制になっているとか理解がないとできない。これまでは、県立高校は県がやっていくものだということで市町村の関心があまり無かったが、市町村が生き残っていくためには県立高校を無くしてもらっては困るという思いがあるので、学校と市町村がしっかりタイアップしてお互いが伸ばしていくような活動をしなくてはいけないと思っている。例えば、矢掛高校ではカリキュラムで町に出て行くということがあるが、市町村がしっかり受入体制を整え、当たり前のようにやっている。

こういったことがそれぞれの市町村でできないといけない。ただ、学校によって違いはある。県内の学校が全てそうではない。生徒数が減ってきて今後統廃合の可能性のある県立高校、あるいは人口が減ってきて存続が懸念される市町村、そういった所で利害が一致してできるということがある。

それから18歳選挙権の話だが、こういった若者の地域参画は、地元のことをしっかり考えて自分で活動していくということなので主権者教育につながり、さらには地方創生につながっていくものと考えている。中高生の活動が大きなカギを握っているのではないかと考えている。

もう一つは、社会教育委員の会議で、若者の参画が地方創生につながり、自己肯定感にもつながり、さらには主権者教育にもつながっていくんだというような流れで、今研究しているところである。

委員

教育課程の中で常時取り組む活動になれば、きっちりした計画の中でやっていかなければならないと思うが、ある時期だけでも子ども達を巻き込んで行う活動、そういうような取組もできるのではないかという話もあったと思う。少しでも工夫をしながらそれぞれの地域で、地域に関する学習ができるようになればと思う。

子どもが大きくなって、地域に戻ってきたり地域の課題に取り組んでくれる

ようになったら、地域も一層活性化してくると思う。若者が地域活動に取り組むということは将来のことを考えれば大事なことはないかと思う。しかし、なかなかできていない部分もあるので、今後に向けた課題であると思う。

委員

事務局からの説明で、審議会の意見を次年度以降の予算に反映させていくという話があったが、第2次岡山県教育振興基本計画の39ページには、工程ということで28年度から32年度にかけての道筋が示してある。若者が主役地域まるごと活性化事業は27年度からの新規事業ということで取り組んでいると思うが、計画ができたことでこの事業が今後どうなっていくのか、あるいはこれ以外の事業を考えているのか、逆にいいアイデアがあれば出して欲しいということか、その辺りのことを聞きたい。

事務局

39ページの工程表で、例に挙げていただいた若者の公民館活動支援のところであるが、平成27年度新規事業で、県の場合は基本的に新規事業の場合は3年で見直しということになっているので、工程表は3年間、29年度には終わるような形にはしている。

しかしながら皆様方の意見をいただいて、新たな事業を当然考えていかなければいけない。計画は大きな柱しか書いていないので、その上の学習機会の活用にしても本日御議論いただいたところであるが、皆様方の御意見を踏まえて学習機会の活用を具体的にどういう施策を行っていくかをこれから検討してまいりたい。公民館の事業に限らず様々な事業について、新しいアイデアをしっかりといただきたいと思っている。

委員

企業の立場では、どう関わるのかが難しい。企業規範として地域貢献することはあると思うが、企業の立場で教育委員会との直接の関わりで企業が何か貢献するかといえば、余りそぐわない気がする。別の切り口で、いろいろな地域活動に参加していく、声をかけてもらうというのはあるかもしれない。県が働きかけたり何か数字を決めるとかいうのはそぐわないと思う。

委員

企業に対して、今までも事業を委託してやっていたと思うが、企業の中で生涯学習の重要性のお話しをさせていただいて、家にできるだけ早く帰って子どもと関わることをお願いしたり、いろいろあったと思う。

委員

総論としてはよい。しかし、経済団体等をお願いするのはいいと思うが、個別の企業への働きかけについて数値目標等を設定することはあまり意味がないのではないか。

委員

企業は企業の経営理念とかいろいろ有るので、全部を一律にとというのは難し

いと思うが、そういうことは大事だということで、一緒にやろうというようなことは、企業と連携してやっていけたらいいのではないかな。難しいところもあるが御協力いただけるところは、できるだけ御協力いただきながらという方向かと思う。

予算に向けて、今回と次回までの議論を整理し、予算編成に役立てていただけるような提言として、まとめていくことにしたい。この会の位置付けという面もあるので、いいものはいい、こうした方がいいのではないかな、というようなことを特に次回はお願いしたい。

委員

若者の新しい事業のことだが、若者が地域のために公民館で何か活動するという代わり映えのないプログラムだと思うが、これに参画できる子というのはある程度の子でないと実際続かないかなと思う。そういうことも大切だが、地域の中で若者が溜まれる場、学校以外で行ける場、そこに行くことで人間関係が作れて、ちょっとやってみようかと、活動につながるように、そういった場みたいなものができるような事業を考えてもらいたい。

委員

若者、特に中高生がそういった活動ができにくい、なんとかよい事業が考えられればということだと思う。まだ次回もあるので、委員の皆様方もこんなことをしたらどうだろうかという話をさせていただきたい。それでは本日はこれで協議事項の学びを通じた持続可能な地域づくりを終わらせていただく。